

[講演要旨]

高知大学地震観測所所蔵の昭和南海地震の被害写真について

高知大学* 山品 匡史・久保 篤規・大石 佑輔

An album of photographs of the 1946 Showa Nankai Earthquake

in the Kochi Earthquake Observatory, Kochi University

Tadashi YAMASHINA, Atsuki KUBO and Yusuke OISHI

Kochi Earthquake Observatory, Faculty of Science, Kochi University,

2-17-47 Asakura-honmachi, Kochi-shi, Kochi 780-8073, Japan

§ 1. はじめに

高知大学理学部附属高知地震観測所には、昭和南海地震による高知市などにおける被害などを写した写真を整理したアルバムと一部写真のネガが保管されている。本発表では、高知大地震観測所 所蔵写真とそれらの利活用について紹介する。

§ 2. 所蔵写真について

高知大地震観測所所蔵の昭和南海地震の写真には、地震動、津波、長期浸水、火災による被害や、地殻変動の状況が写されている。撮影者は、旧制高知高校 沢村武雄・上田壽の両教授および県立須崎工業自然科学班である。撮影は、地震発生当日から翌年 2 月までに行われている。撮影場所は、当時の高知市、高岡郡須崎町・多ノ郷村(現、須崎市。)、同郡新宇佐町(現、土佐市。)、安芸郡室戸岬町(現、室戸市)である。なお、撮影日と撮影場所について、一部の写真においては不明である。

沢村・上田撮影によるものの多くには、被害状況や解説も付記されており、画像だけでは分からない被害状況の詳細などを知る上で有用なものとなっている。

§ 3. 撮影場所の特定作業

写真の多くには撮影場所に関する情報が付記されているが、それらは施設名や町域までの地名がほとんどである。所蔵写真を用いて、被害種別の分布調査、地震動による被害と震度分布や地盤構造との比較、などを行うためには、可能な限り詳細な撮影場所を特定する必要がある。

発表者らは、各写真の付記、郷土史などの各種資料、現地調査によって撮影場所の特定作業を進めており、半数以上で撮影場所の特定ができている。

§ 4. 所蔵写真の利活用について

4.1 防災啓発活動への活用

昭和南海地震から70年近くが過ぎ、現在の住民の大半は同地震の未経験者である。こうした人々に次の南海地震に対する防災・減災意識を高めてもらうためには、本人が次の被災者になり得ることを認識し、直面する被害をイメージしてもらうことが効果的だと考えられる。

そのため、所蔵写真のA4判パネルを作成し、大学祭や高知県立図書館での展示、自主防災組織や病院、企業などへ貸し出す活動を行っている。今年度は新たに高知県教育委員会のご協力で高知県下の学校へパネルの貸出について案内し、希望校において展示や授業などでの利用がなされている。

閲覧した方からは、「自分の住む高知が地震・津波の被害を受ける場所であることを改めて実感した」といった感想を頂いている。このことは、被害写真が当事者意識向上に有用であることを示している。

4.2 被害要因の推定や将来の被害推定への利用

所蔵写真から分かった高知市内での地震動による被害地点と常時微動観測から判明した長周期の常時微動卓越周期を示す地域との間には対応関係が見られる。このように、撮影された被害状況と地盤情報など他の情報とを比較・検討することは、昭和南海地震での被害要因の推定だけではなく、将来の南海地震による被害の検討を可能にする。

§ 5. おわりに

今後は、所蔵写真の、防災啓発活動での利用の継続、撮影場所の特定や分析を進めることによる資料性の向上、を行っていきたいと考えている。

* 〒780-8073 高知県高知市朝倉本町2丁目17-47 高知大学理学部附属高知地震観測所
電子メール: jm-yamashina@kochi-u.ac.jp